

約 200 区画全体の平均で見ると、42 年間で開始日は約 12.6 日早まり、終了日は約 8.8 日遅くなり、期間は約 3 週間となる約 21.4 日延びていた。2023 年の夏の日数は 6 月 11 日～10 月 9 日の 121 日間だった。

立花教授によると、以前は大陸から流入する暖かい空気が日本列島周辺の海洋の上空で冷却され、気温は春から夏にかけてゆっくりと上がっていた。しかし、近年は海面水温の上昇により空気が冷やされず、夏が早く到来。海面水温は高い状態が続き、気温が下がりにくく夏の終わりも遅くなっているという。「冬の期間」も調べたところ、ほぼ変化はなかった。大陸から入り込む強い寒波の影響を受け続けているためと考えられる。

四季の國が迎える 新しい現実

日本は古くから「春夏秋冬」の移ろいを大切にしてきた。しかし 42 年間の気象データが示すのは、季節の均衡が静かに崩れ始めている現実。夏が長くなることは、単に暑い日が増えるということではない。それは、人々の時間の感覚や文化の営み、経済の周期までも変えてしまう変化である。

気候変動は遠い話ではなく、私たちの日常の中にすでに現れている。長くなつた夏、短くなった秋。その違和感を感じ取る感性こそ、次の時代を生き抜くための手がかりになるだろう。研究が示した数字は、未来の予測ではなく、すでに起きている現在の記録だ。季節を見つめ直すことから、持続可能な社会の新しいリズムを描くことができるはずだとコメントしています。

三重大の研究が示した「夏の長期化」は、単なる数字の変化にとどまらない。私たちの暮らしの季節感を静かに変え、春や秋の余白を狭めている。42 年間の気象データが語るのは、すでに始まっている気候の変化そのもので、これから先の季節をどう感じ、どう備えるかが問われていると結論づけています。

日本酒に 米國産（こめこくさん）と ふりがな
判こに ハア 息かけるのは どんな意味
無の世界 無が有ると 言う事か
座禅組み 悟ったことは 僕不向き

令和 7 年 寒 露

